

私の捨てられない

大切なもの

生涯を通して、誰にも捨てがたい貴重なものが1つや2つはあるものです。それは、コレクションのお宝や思い出深い形見であったり、また、自作の逸品であるかもしれません。当人にとっては、その物事の価値・貴さは何にも代えがたい大切なもので、生きる励みにもなっていることでしょうか。そんな思い入れを、地域の方々に寄稿していただきました。

引き揚げ三味線

土屋 初枝さん(鶴瀬西2)

わが家の一番大事なものは別として、私の大事なものに、親から買ってもらった三味線があります。そして、それは引き揚げ三味線です。

昭和21年3月、台湾からの引き揚げのとき、楽器は持つことができず、布団2組が許されたのです。その中に、ひそかに入れられていたのです。私にはそのような才覚はありません。いつのまにか、主人が隠してくれたのでした。そして、その後は親類に渡って、十数年前に戻ってきました。

私はもう弾けそうにないです。わが家の長女は三味線は習う気はない...と。三女が定年になるから、私が...と。それまで、床の間で待ってもらいましょう。



大切な一枚の写真

荒木 律子さん(関沢2)

私の捨てられない大切なものとは、妹と一緒に撮った七五三の晴れ姿の写真です。私と妹は、終戦後まもなく、島根県の津和野町より少し山間部に入った所で生まれました。7人兄妹で、兄や姉たちとは年がはなれているので、一緒に遊んだ記憶はないです。姉の話では、幼いころの私と妹の子守りをよくさせられたそうです。津和野高校を卒業して進学のために上京しました。この写真は帰省したとき、母のアルバムから5枚ほど、母が渡してくれた懐かし大切な写真です。戦後の物資の不足した時代に、七五三の祝いをしてくれた親の愛を考えること、幼いころの故郷を思う大事な一枚の写真です。



木製の組み立てカメラ

萩原 弘さん(鶴馬)



昔は記念写真と言えば、写真屋が大型のカメラで黒い布をかぶってピントをあわせて写真を撮りました。左の集合写真は今年から75年ほど前小学校6年の卒業写真です。

今回特集の私の捨てられない物とは、この時の記憶にある黒い布をかぶって撮影していたものと同様のカメラです。当時は戦時中でしたので食料は少なく代用食などという粗末なものでしたが、何を食べてもおいしかった記憶があります。衣服なども兄弟のお下がりや古い着物を再利用したり、当時はいろいろな知恵を働かせていました。私の服装は長く残る記念写真だからと、親が一帳羅のものを着せてくれたのだと思いますが、上着はデザインではなく、きぼはきぼのものだったんです。いろいろな布切れを集め親父が仕事で使うミシンを使い縫い合わせたものでした。このミシンは難波田城公園の古民家の中に展示されています。そちらを見ても昔のことを思い出させてくれます。ボケ防止の意味も含め、これからも捨てられないものからいろいろなことを思い出し出してみたいと思っています。



鶴瀬小学校6年卒業記念写真 昭和20年(1945年)3月

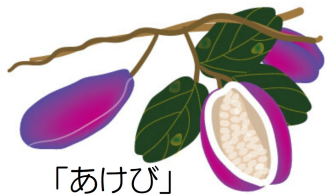
父の思い出いっぱい庭の木々

正木 悦子さん(関沢3)

庭仕事の大好きな父は、福島の家の方に四季折々の花を咲かせ、木を植え、私たち子どもを楽しませていました。

ひまわりは大きかったなあ。ねじり草やしらすぎ草は山からの贈り物だったのかな。オリジナルのつげの木、水苔で作ったウサギもいたかな。五葉松は見事な枝ぶりだったなと思いがいっぱいです。

そんな父が、新築した我が家の庭に植えてくれた数々の木々は、40年を過ぎて元気に成長しています。白ふじは、甘い匂いを漂わせながら道にどんどんつるを伸ばし、つげはお隣さんまで顔をのぞかせます。しだれ紅葉は、洋風の庭の真ん中で「わしは退かん」とたちつくしています。塀に巻き付いたあけびは「あけびですか。懐かしいですね」と、道行く人のおしゃべりの場を与えてくれます。



「あけび」

父に似て庭いじりが好きな私と娘。ハーブなどを植えて洋風の庭に変えたい私の意志に相入れない木々ですが、父の愛を感じる大切なもので切ることができません。アンバランスの中にも父のあったかさを感じる庭にお立ち寄りください。

パソコンで「捨てられない大切なもの」を検索してみた。

○娘に買ってあげた七五三のワンピース。娘はもう服は自分で買う。私のダンスにワンピースはかけられている。

○みかん箱いっぱい夫からのラブレター。今となっては、読み返すこともないが捨てられない。

○長男の文学賞最終候補になった小説。次男の国家試験の合格通知。母子手帳。母の日のプレゼント等々。何ひとつ捨てられない。夫と2人、昔にタイムスリップして楽しんでいる。「断捨離」は大切かもしれないが、捨てられないものがいっぱいというのも幸せなのだとしみじみ思っています。(月間ケアマネジメント2022年より)

大切なもので検索すると、「本当にそれは大切なもの？」と断捨離の項目ばかりが出てくる。しかし「捨てられないものがある幸せ」の一文を読み、人がものに託した幸せの記憶や愛情が、その人にとって本当の大切なものなのだと、しみじみと思われました。

(編集委員)